

# 都市再生整備計画(第3回変更)

みなとみらい21<sup>しゅうへんちく</sup>周辺地区

かながわ よこはま  
神奈川県 横浜市

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	みなとみらい21周辺地区	面積	122 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 3 年度				

**目標**

大目標 集約型の都市構造の転換とコンパクトな市街地形成を進め、更なる国際競争力の強化を図るため、市の中核である横浜都心を形成するエリアである横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、北仲通地区の都市機能を強化し、公共施設等の更なる整備による地域の一体化を推進する。

小目標① 最寄り駅や、都市施設間のアクセス・回遊性の向上を図るための歩行者ネットワークの形成により都市機能を強化し、国際競争力のある拠点形成の一助とする。

小目標② 横浜駅周辺の治水安全度の向上を図る。

小目標③ 横浜駅周辺の高質な空間づくりを図る。

**目標設定の根拠**

まちづくりの経緯及び現況

- ・本地区は、横浜駅周辺地区や北仲通地区といった、横浜都心臨海部各地の魅力をつなぐ「みなと交流軸」を形成している。
- ・北仲通地区は、みなとみらい21地区と旧市街地である関内・関外地区をつなぐ位置に立地し、重要な結節点となる地区で、まちづくりガイドラインを定めており、国際競争力の強化・雇用創出・経済活性化等の都心部の再生、文化芸術創造都市の実現に向けた取組の推進、開港の歴史を継承した魅力づくり及びウォーターフロントの再生による魅力づくりをまちづくりの目標としている。
- ・現在、北仲通地区内では、民間事業者による開発や横浜市役所新市庁舎の整備が予定されており、北仲通周辺地区の来街者が見込まれるため、これを契機に最寄り駅や周辺地区との回遊性の強化や、安全性の高い動線を確保することが課題となる。
- ・6社9路線の鉄道が乗り入れ、1日に延べ約200万人の乗降客数がある首都圏有数のターミナルである横浜駅周辺は、横浜都心の核であるとともに、首都圏の中での東海道軸における重要な拠点である。しかし、まちとして自然災害に対する脆弱性を抱えていることや、都市活動に必要な道路などの基盤が不足していることから、その機能を十分に発揮できていないとともに、災害時には、首都圏全体の機能に大きな影響を与える可能性を抱えている。本地区のような大都市中心部の既成市街地においては、治水安全度の更なる向上を図るためにも河川、下水、道路、鉄道、再開発等のまちづくりを一体的に扱わねばならない。
- ・当計画地区は特定都市再生緊急整備地域となっており、横浜都心臨海部各地区の相乗効果による更なる国際競争力の強化を図り、日本全体の成長を牽引し新たなビジネスチャンスを生み出す「アジア拠点」を形成するため必要な公共施設等の整備を行っている。

**課題**

- ・北仲通地区の開発に伴い約2万人の就業者及び居住者数の増加が見込まれるが、鉄道各駅からの現況歩行者動線では通勤時間帯などに、歩行者環境の悪化が見込まれるため、開発に合わせ対応を行う必要がある。
- ・横浜駅周辺は地下街の発達、高度利用された駅直近部等の地区特性から、浸水した場合の被害が甚大となる恐れがあり、浸水対策の1つとして河川の治水安全度の向上を図れる橋梁の架替えが必要となる。また、混雑緩和と周辺地区へのアクセス強化のため、民間開発に併せた基盤の整備を行う必要がある。

**将来ビジョン(中長期)**

【総合計画】

- ・横浜らしいまちづくりの推進【回遊性の充実】～みなとみらい21地区と関内地区との回遊性の充実
- ・港や海を楽しむまちづくり【海辺や港沿いを回遊できるネットワークの充実】～海や港の景観などの水辺空間を楽しみながら、区内の観光スポットなどを回遊するプロムナードの充実を図る。
- ・大岡川・中村川の再生【川沿いの遊歩道の整備】～大岡川・中村川を美しく魅力的に再生し、多くの人々が訪れるよう、水辺の散歩道を整備します。また、利便性や安全性に配慮した生活動線としても利用できるようにする。
- ・快適に利用するための交通システムの充実【快適な歩行空間ネットワークの充実】～誰もが文化施設や公園、商店街などの観光スポットを回遊できるよう、また、街並みなどを楽しめるよう、歩道の幅や段差の改善、わかりやすい案内サインの設置、沿道緑化などを進め、歩行者空間ネットワークの拡充を図る。
- ・横浜駅西口駅ビルや東口駅前開発、周辺地区の開発など国家戦略特区を活用した民間開発や関連する基盤整備を促進し、国際競争力強化に資するまちづくりを推進。
- ・横浜駅周辺の快適な歩行と滞留のできる空間形成を行う。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
桜木町駅から北仲通地区への歩行者安全水準の向上	人/m・分	歩行者交通量(ピーク時予測値)に対する減少	ベデストリアンデッキの整備により、歩行者交通が分散され、安全で快適な歩行者空間が確保される。	53.73人/m・分	H27	27人/m・分	R2
横浜駅周辺地区の治水安全度の向上	m3/s	鶴屋橋の架替えによる帷子川分水路の流量の増加	横浜駅周辺において、就業者や来街者、観光客が安心して過ごす環境を整備するため、河川の治水安全度向上を図る。	260m3/s	H22	350m3/s	H29
地下通路接続による西口駅前地上部の混雑緩和	人/日	1日当たり地上部を通過する人数の減少	駅前の混雑が緩和され、快適な歩行が可能となり、アクセスが向上する。	530,100人/日	H21	423,300人/日	R2
横浜駅中央西口駅前広場内の歩行及び滞留空間の拡充	人/m <sup>2</sup> ・日	1日当たりの駅前広場利用者に対する空間的ゆとりの増加	タクシーレーン(車道)の歩道化により歩行者空間が拡充され、円滑な歩行や快適な滞留空間が確保される。	97人/m <sup>2</sup> ・日	H26	75人/m <sup>2</sup> ・日	R2
横浜駅きた西口から鶴屋町方面への歩行者安全水準の向上	人/m・分	歩行者交通量(ピーク時予測値)に対する減少	歩道を拡充するとともに、新設歩行者デッキへつながる昇降施設の整備により歩行者交通が分散され、安全で快適な歩行者空間が確保される。(歩行者交通量は、周辺開発を見込まずに予測値)	46.68人/m・分	H29	20人/m・分	R2

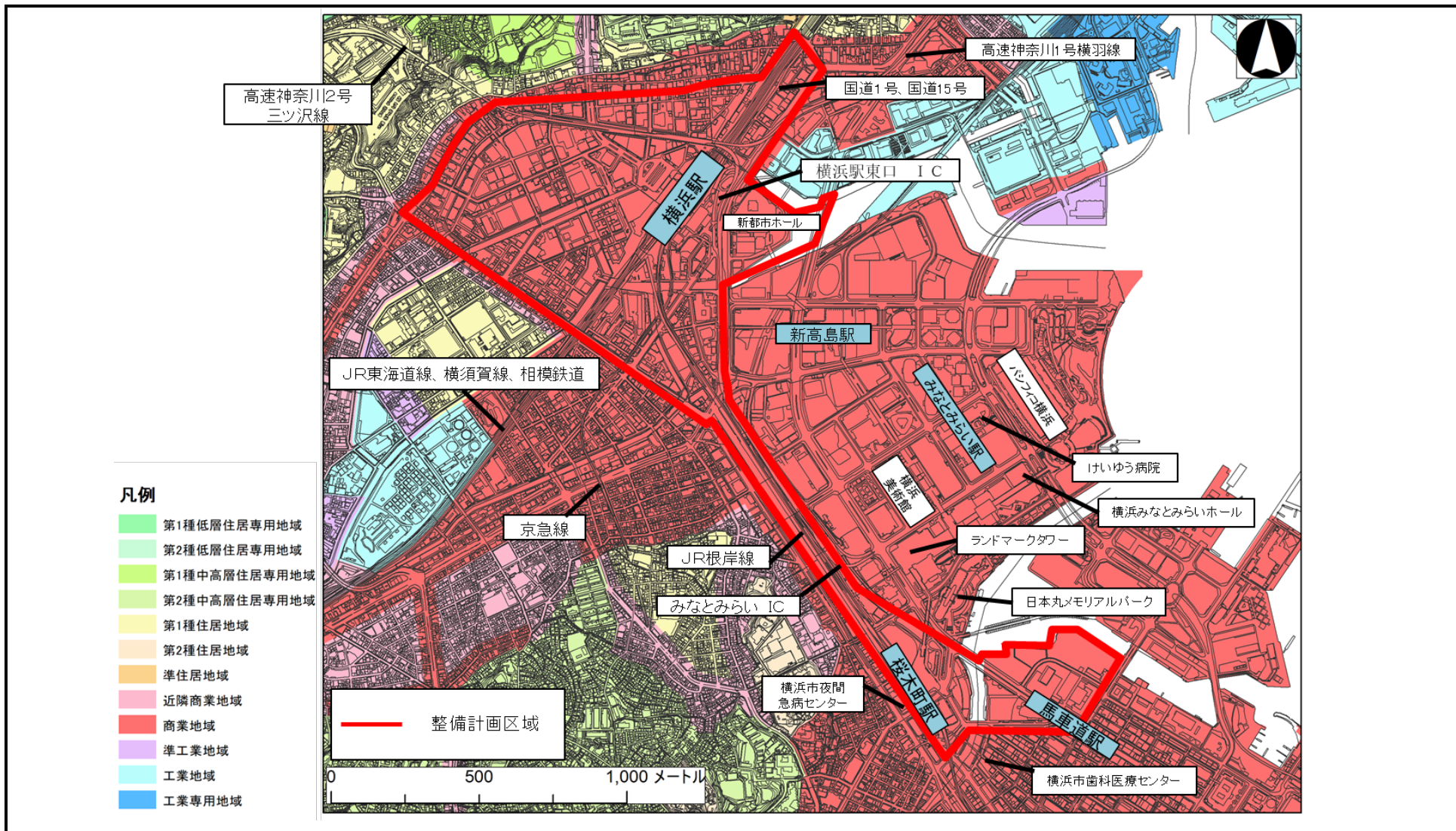
整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最寄駅や、都市施設間のアクセス・回遊性の向上を図るための歩行者ネットワークの形成により都市機能を強化し、国際競争力のある拠点の形成。</li> </ul>	<p>【基幹事業】                      地域生活基盤施設：大岡川・栄本町線横断人道橋                      地域生活基盤施設：横浜駅自由通路・西口地下街接続                      高質空間形成施設：横浜駅西口駅前広場改修整備                      高質空間形成施設：横浜駅きた西口駅前広場整備</p> <p>【関連事業】                      東急東横線跡地整備事業                      Wi-Fi環境整備事業</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜駅周辺の治水安全度を向上。</li> </ul>	<p>【基幹事業】                      道路：鶴屋橋架け替え</p>
<p>その他</p>	



みなとみらい21周辺地区(神奈川県横浜市)

面積	122 ha	区域	神奈川区の一部(金港町、栄町、台町ほか)、西区の一部(南幸一丁目、南幸二丁目、中区の一部(桜木町、北仲通、海岸通ほか))
----	--------	----	--





みなとみらい21周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	1 最寄駅や、都市施設間のアクセス・回遊性の向上を図るための歩行者ネットワークの形成により都市機能を強化し、国際競争力のある拠点形成の一助とする。	代表的な指標	桜木町駅から北仲通地区への歩行者安全水準の向上 (人/m・分)	57.73人/m・分 (H27年度)	→	27人/m・分 (R2年度)
	2 横浜駅周辺の治水安全度の向上を図る。		地下通路接続による西口駅前地上部の混雑緩和 (人/日)	530,100人/日 (H21年度)	→	423,300人/日 (R2年度)
			横浜駅周辺地区の治水安全度の向上 (河川流量)	260m <sup>3</sup> /s (H22年度)	→	350m <sup>3</sup> /s (H29年度)

